

宮崎県内出土の近現代ガラス製品の報告例について

竹田 享志

（宮崎県埋蔵文化財センター）

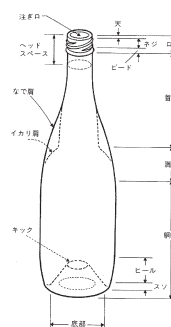
1 はじめに

筆者は、2008年刊行の「宮ノ東遺跡」（表2・図3の10）発掘調査報告書の「近現代」の整理を担当した。宮ノ東遺跡は宮崎県西都市に所在し、旧石器時代から近現代に至る複合遺跡である。近現代においては昭和50年の航空自衛隊新田原基地の飛行機進入路にあたるとして一ツ瀬川対岸の西都市四日市地区へ集団移転するまで「岡富地区集落（岡富村）」が所在した。本調査においては、調査区内に所在した「住吉神社」跡地の石垣裏込（明治）や防空壕跡、表面採集等により多数のガラス製品が出土した。これらを整理するにあたり、宮崎県下の発掘調査報告書掲載の近現代ガラス製品の集成を行い報告書刊行後も継続してきた。今回、その集成を元に若干の考察を行う。

2 宮崎県下の発掘調査報告書掲載の近現代ガラス製品

（1）集成の方法

集成は2021年までに宮崎県教育委員会・宮崎県埋蔵文化財センター・西都原考古博物館から刊行された発掘調査報告書を奈良文化財研究所「全国遺跡報告総覧」（<https://sitereports.nabunken.go.jp/ja>、以下「総覧」）での検索および紙媒体で行った。また、図・写真については、「総覧」よりダウンロードしたPDF形式の報告書を加工し使用した。「総覧」にPDFデータが未掲載の報告書に関しては、紙媒体をスキャニングして加工した。



【図1】ガラス瓶の各部名称（山本1990より転載）

大分類	Ⅰ 薬品		Ⅱ 食品			Ⅲ 日用品			Ⅳ 不明
中分類	(1) 医療用薬品	(2) 一般用薬品	(1) 飲料	(2) 食品	(3) 不明	(1) 化粧品	(2) 文具	(3) その他	
小分類	①医療用薬品瓶 ②アンプル ③注射器	①一般用薬品瓶 ②目薬瓶 ③揮発油瓶 ④殺虫剤瓶 ⑤不明	①酒瓶 ②清涼飲料瓶 ③牛乳瓶 ④不明瓶	①調味料瓶 ②食品瓶	①一升瓶	①化粧クリーム瓶 ②白髪染瓶 ③整髪料瓶 ④化粧水瓶 ⑤香水瓶 ⑥不明瓶	①インク・墨汁瓶 ②糊瓶	①玩具・ランプ・蠅取り器	①瓶 ②栓

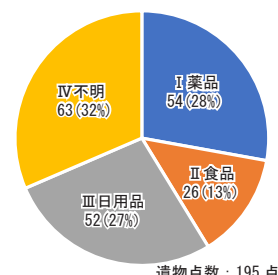
【表1】ガラス製品分類表

（2）分類の方法・ガラス瓶の各部名称について

本稿のガラス製品の分類は、表1の例に沿って分類した。大分類・中分類については瓶等の用途別、小分類については中身の種類（例：酒）＋器種（例：瓶）で分類した。種類に関しては報告書の情報に沿っているが、本稿で新たに判明した商品名等の事実については報告書の記載内容に修正・追加を行っている。また、本稿で取り扱ったガラス瓶の各部名称については、図1に沿って記述した。

（3）報告例の動向

集成の結果、20遺跡195例が報告されていた（表2・図3）。また、図・写真は掲載されていないが、文章上での報告も数点認められた。なお、



【図2】大分類内訳

No.	遺跡名	所在市町村	発行機関	書名	番号	主なガラス製品
1	馬場畑遺跡	延岡市	延岡市教委	市内遺跡	54	香水瓶
2	延岡城内遺跡 (8次)	延岡市	延岡市教委	延岡城内遺跡第8次	27	香水瓶 等
3	浄土寺遺跡 (1次)	延岡市	延岡市教委	市内遺跡	49	瓶
4	恒富中学校地点	延岡市	延岡市教委	平成17年度市内遺跡発掘調査に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	32	一升瓶
5	延岡城下町遺跡 (1次)	延岡市	延岡市教委	平成11年度市内遺跡発掘調査に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	22	整髪料瓶、インク瓶 等
6	岡遺跡 (9次)	日向市	埋文セ	岡遺跡 (第9次調査)	223	目薬瓶
7	平山下原遺跡	都農町	埋文セ	平山下原遺跡	201	化粧品瓶
8	野首第2遺跡	高鍋町	埋文セ	野首第2遺跡 (第2分冊)	172	アンプル、注射器
9	永牟田第2遺跡	新富町	埋文セ	永牟田第2遺跡	134	一般用薬品瓶、調味料瓶、インク瓶
10	宮ノ東遺跡	西都市	埋文セ	宮ノ東遺跡	173	医療用薬品瓶、一般用薬品瓶、目薬瓶、清涼飲料瓶、牛乳瓶、調味料瓶、化粧クリーム瓶、白髪染瓶、整髪料瓶、化粧水瓶、インク瓶、糊瓶、蠅取り器、ランプ、ビー玉 等
11	昌明寺遺跡	えびの市	えびの市教委	昌明寺遺跡	30	瓶
12	地主原A区	えびの市	えびの市教委	小木原遺跡群	16	瓶
13	高岡麓遺跡	宮崎市高岡町	県教委	高岡麓遺跡		薬瓶、清涼飲料瓶、おはじき 等
14	別府町遺跡	宮崎市	埋文セ	別府町遺跡	137	酒瓶 (ワイン)、インク瓶
15	大久保第2遺跡	都城市	都城市教委	大久保第2遺跡	48	瓶
16	中町遺跡 (5次)	都城市	都城市教委	中町遺跡 (第5次調査)	129	医療用薬品瓶、一般用薬品瓶、目薬瓶、揮発油瓶、殺虫剤瓶、酒瓶 (清酒・ワイン・ビール)、清涼飲料瓶 (サイダー、ラムネ、牛乳瓶、調味料瓶、化粧クリーム瓶、整髪料瓶、化粧水瓶、インク瓶、糊瓶、ランプ 等
17	天神遺跡 (5次)	都城市	都城市教委	都城島津家領の唐人町周辺の遺跡	65	医療用薬品瓶等
18	八幡遺跡	都城市	埋文セ	八幡遺跡	71	溶けたガラス瓶 (都城空襲)
19	南御屋鋪跡	都城市	都城市教委	南御屋鋪跡	127	一般用薬品瓶、目薬瓶、墨汁瓶 等
20	旧鵜戸墓地跡	日南市	日南市教委	旧鵜戸墓地跡	10	酒瓶

【表2】ガラス製品の報告例がある県内遺跡

文章のみの報告に関しても種別等が分かるものに関しては点数に加算している。ガラス片等の記述については加算していない。

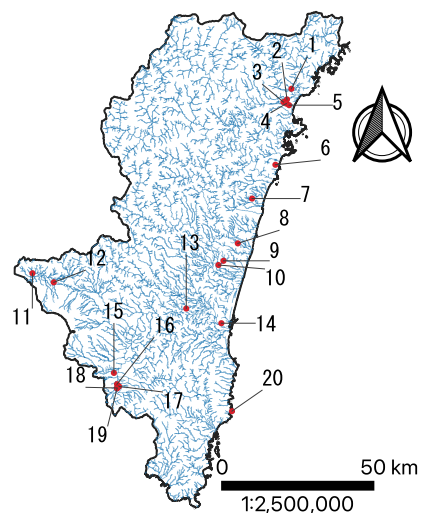
図・写真で報告されたガラス製品の内訳は図2のとおりである。薬品 28%、日用品 27%、食品 13%の内訳となる。

I 薬品

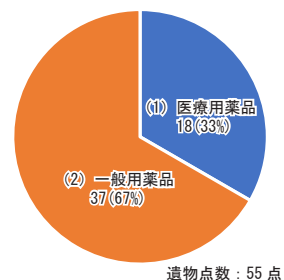
薬品の内訳については、医療用薬品が 33%、一般用薬品が 67%となる (図4)。

1 から 15 は医療用薬品瓶である。他にアンプル (16)、注射器 (17) がある。瓶には医療機関の陽刻 (エンボス) が施されているものもある (1 ~ 7・10・11)。当時のガラス製薬品瓶は服用後、病院等に持参し、詰め替えてもらうものであった。なお、現代においては樹脂製の瓶に置き換わっているが、デザインは踏襲されたものになっている。

18 ~ 54 は一般用薬品瓶 (売薬瓶) である。一般用薬品瓶については、「富山 (トヤマ)」「肥前」の陽刻が施される資料がある (23・36)。四大売薬に数えられた富山・肥前の陽刻をもつこれらの資料は、「配置薬」の1つであることが推察される。また、「神薬」瓶に関しては、さまざまな製薬会社が発売している (20 ~ 23・29・34)。「神薬」は成分にクロロホルムを含む気付薬として、1873 (明治6) 年頃から 1976 (昭和51)



【図3】県内のガラス製品報告遺跡



【図4】I 薬品内訳

年（法令によりクロロホルムの使用禁止）まで販売された。なお規制後、クロロホルム未使用の
 邑田資生堂の神薬はその後販売された。29 は都城市中町遺跡で出土した「資生堂」製の神薬
 である。資生堂は 1872 年に創業した三精舎が興した「資生堂薬局」が元祖である。その後、同
 社名を名乗る複数の企業があり、本資料は明治中期～大正初期の「中田資生堂製」の神薬である。
 なお、19「アサヒ精神薬」・25「ドラミン」は神薬に類似した効能をもつ気付薬である。

形状が特徴的なガラス製品としては目薬瓶がある（35～51）。出土した資料では、35～37、
 44・46 は瓶の一角を凹ませる形状にし、箱に収めた際に生じる隙間に点眼用のガラス管を収納
 し販売されていた。46 は「大学目薬」で 1899（明治 32 年）に発売されている。その後、両口式
 点眼瓶「ロート目薬」（47）が 1931（昭和 6）年に発売され、その後多くの製薬会社でもこの形
 状の目薬が販売された（38・43）。両口式点眼瓶は両端に口部を持ち、大きい方の口に取り付け
 られたゴム製の部品を押すと、薬液が小さい方の口から滴下されるしくみであり、従来の容器に
 比べて薬液に手を触れずに滴下できることで衛生的に使用できるものであった。しかし日中戦
 争・太平洋戦争中のゴム不足から、指で容器の底を叩く際の振動で滴下する一口タタキ点眼瓶（39）
 が使用された。この資料には「組合目薬」の陽刻が施される。戦時統制品である。再び両口式点
 眼瓶が使われ始めるのは戦後になるが（40～42）、1962（昭和 37）年に参天製薬よりポリカーボネー
 ト製点眼容器が発売されることによってガラス製点眼瓶はその役割を終えることになる。40 は
 1952（昭和 27）年発売の「ロートペニマイ目薬」、41 は 1958（昭和 33）年発売の「新ロート目
 薬」である。キャップ等、各所にプラスチックが使用されている。42 は陽刻等の手がかりがなく、
 商品名、販売時期は不明であるが、口縁部に外ネジの加工が施されていることから 40・41 と同
 様プラスチック製のキャップが付くことが想定され、戦後の資料と判断した。

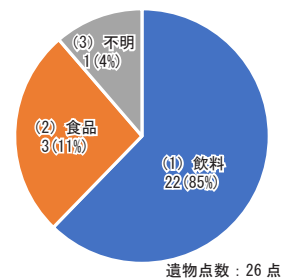
52 は揮発油瓶である。胴部陽刻にある「ライジングサン石油株式会社」は 1900（明治 33）～
 1948（昭和 23）年に操業された現出光興産株式会社・旧昭和シェル石油株式会社の前身である。
 底面に昭和シェル石油の商標である貝殻の陽刻が見られる。

53・54 は殺虫剤瓶である。52 の陽刻にある「大下回春堂」は 1890（明治 23）年に創業し、1962（昭
 和 37）年に株式会社フマキラーに社名変更している。54 は「ハイカチー
 ル」の陽刻をもつ。詳細は不明だが、出土位置が 53 と同じ土坑で有る
 ことから同時期の殺虫剤であろう。

Ⅱ 食品（55～80）

食品については、飲料 85%、食品（調味料等）11%と圧倒的に飲料
 に使用されたガラス製品の割合が高い（図 5）。

55～66 は酒瓶である。55・56 はそれぞれ「三粉詰」（粉＝デシリッ
 トル）「3 D. L I T E R」の陽刻から、1921（大正 10）年の度量衡
 法改正による容量表記義務化後の資料と思われる。57・58 は清酒瓶である。機械栓を装着する
 凹みが口部に見られる。59～63 は底面内のキックの形状からワイン瓶と思われる。59 は「蜂印
 香竄葡萄酒」、商標登録は 1924（大正 13）年である。64～66 はビール瓶である。64・65 は「キ
 リンビール」瓶で、64 は王冠を採用する前のコルク栓を使用する。キリンビールが王冠を採用
 するのは大正に入ってからである。また、陽刻は右から左に施される。65 は「登録商標」の陽
 刻が右から左にかけて施されている。64・65 とともに大正から戦中にかけての資料である。66 は「カ
 ブトビール」瓶である。カブトビールは愛知県半田市で 1898（明治 31）年から 1943（昭和 18）
 年まで製造されていた。

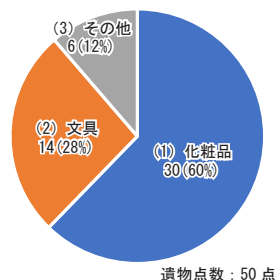


【図 5】Ⅱ 食品内訳

67～71は清涼飲料瓶である。67・68・71はニッキ水瓶である。ひょうたんのような形状に特徴がある。67のように子供向け清涼飲料水（ニッケ水）の陽刻に日中戦争の1932（昭和7）年、爆弾を抱えたまま敵陣に突撃し戦死した（とされた）「肉弾三勇士」（増子2015）の顔と「肉弾三勇士」の文字の陽刻とが施されている。当時の軍国主義思想が子どもの生活の中にも浸透していった様子が伺われる資料である。69はサイダー瓶である。胴部に「大日本麦酒株式会社製造」の陽刻が見られる。大日本麦酒株式会社は1906（明治39）年に札幌・恵比壽・朝日を統合して創業し、戦後の財閥解体・過度経済集中排除法の適用を受け、1949（昭和24）年に朝日麦酒・日本麦酒に分割されるまで続いた。70はラムネ瓶である。内部にガラス玉が見られる。なお、ラムネ瓶はガラス玉栓（1888（明治21）年～）、サイダー瓶は王冠栓（1904（明治37）年～）と栓形状に違いがある。成分等はほぼ同じであるが当時はサイダーのほうが高級品と受け取られていた。

72～75は牛乳瓶である。中町遺跡（第5次調査）（72～74）・宮ノ東遺跡（75）で出土している。宮崎県内における酪農業は、1874（明治7）年に宮崎県別府町（現宮崎市）で搾乳業が開始され、都城市でも1876（明治9）年、西岳村での牧場開場、1880（明治13）年搾乳業が開始された（宮崎県史 資料編 民族1 1992）。宮崎県下で牛乳が消費され始めるのもこの時期と考えられる。牛乳瓶における栓形状の変遷は、Ⅰコルク栓・内ねじ式等（1889（明治22）年～1900（明治33）年）→Ⅱ機械栓（1900（明治33）年以降）→Ⅲ王冠栓（大正末～大戦中）→Ⅳ紙栓（戦後）である（森2017）。72は栓形状は外ネジ式であるが、Ⅰの時期には栓形状にさまざまな種類があり、この形状もバリエーションの一つであることが想定できる。器形はなで肩で首が残る。初期の牛乳瓶は、細口で首が長いという特徴があるが、次第に首・肩部が消失し広口瓶の形に変化する。これは瓶洗浄の機械化に関係している。また、胴部には「蒸気消毒」の陽刻が見られるが、この文言の表記義務はなく、おそらく消費者に対する安全性のセールスポイントとしての表記である（森2017）。1897（明治30）～1921（大正10）年頃の資料と思われる。73・74については、王冠栓が1923（大正12）年から普及し、「牛乳営業取締規則」（1927（昭和2）年）で義務化されること、同規則で「高温殺菌」の表示義務化され、その表示が胴部に陽刻されることから1927（昭和2）年から戦中にかけての資料と思われる。なお、容量表記は73が「㍑（デシリットル）」、74が「cc」表示となっている。1921（大正10）年の度量衡法改正による容量表記の義務化および同年改正のメートル法、尺貫法廃止に伴いこのような表記になったと考えられる。75は紙栓である。紙栓は牛乳瓶には戦後導入されている。また、口縁内径は約26mmで、これは1955（昭和30）年の「乳等省令」により「ガラス瓶は無着色透明、口内径が26ミリ以上」と規定されている。胴部に「○正」「180cc」陽刻が見られるが、これは1956（昭和31）年の「計量法・特殊容器制度」で表示を義務付けられたものである。1993（平成5）年には現在のマークに変更されている。1956（昭和31）年～1993（平成5）年までの資料である。なお、牛乳瓶は洗浄・再利用を前提としていたので、洗浄時等の破損の原因となる陽刻はプリントに変更されていく。

77～80は調味料瓶である。77は器形から「バチ瓶」と呼ばれているもので、「味の素」の瓶に似る。「味の素」瓶であれば口部がコルク栓であることから1910（明治43）～1927（昭和2）年（ネジ栓瓶使用開始年）の資料となる。なおバチ瓶は1950年代で消滅する。78は愛知トマト株式会社（現カゴメ株式会社）のケチャップ瓶である。愛知



【図6】Ⅲ 日用品内訳

トマト株式会社創業の1949（昭和24）年からカゴメ株式会社に社名を変更する1963（昭和38）年までの資料である。79はイカリソース瓶350mlである。本資料の形状で1940（昭和15）年から1956（昭和31）年に製造されている。

Ⅲ 日用品

日用品の内訳は、化粧品60%、文具28%、その他12%である（図6）。

81～87は化粧クリーム瓶である。筒形・広口・不透明白色のガラス瓶が多い。また、底面にメーカー商標の陽刻が施されていることもある。82はウテナクリーム（1929（昭和4）年発売・久保政吉商会のちのウテナ）である。底面の陽刻から判明した。85・86は他の資料よりかなり小型であるが、化粧クリーム瓶の特徴を有していることから試供品と見られる。87は底面の陽刻からクロバー化粧品製（合資会社三葉商會（～1956（昭和31）年））と思われる。

88～96は白髪染瓶である。白髪染は古くは近世から商品が存在していたが、掲載資料は明治～昭和30年代の資料である。白髪染の内容成分は染料・糊料・水・酸化剤であるが、これを1つの容器に入れたもの（液体一剤式、1905（明治38）年～）、染料と酸化剤を2つの容器に分けたもの（液体・粉末二剤式、1910（明治43）年～）、粉末三剤式（粉末染料・粉末糊料・酸化剤瓶1本、大正初～中）、粉末一剤式（大正末～昭和初）がある。酸化剤には過酸化水素水を用いていたが、液体二剤式には染料瓶（「甲」の陽刻、県内出土例なし）と区別するために「乙」と定量を示す「一」の陽刻がある。また、粉末三剤式には過酸化水素水を入れるガラス瓶のみ付属するため「定量」「一」の陽刻を施し、「乙」の陽刻はない。88・89は千代ぬれ羽（服部松栄堂）、液体一剤式である。1905（明治38）年～大正の資料である。90は商品名は不明だが、「定量」「一」陽刻があることから粉末三剤式の酸化剤用の可能性があり、大正末から昭和初期の資料と思われる。91も同じく粉末三剤式の酸化剤用のガラス瓶である。「るり羽」「一」「定量」「過酸化水素水」「大阪堂島」「山登産業」の陽刻が施される。山登産業株式会社は1946（昭和21）年からのるり羽を製造販売していた。92・93は「わか君」、粉末三剤式である。92は過酸化水素水の定量を示す「一」が「わか君」とともに陽刻で施されている。発売年は1945（昭和20）年以降である。94～96は「君が代」の容器である。94は「君か代」の陽刻がある。広口であり、「甲」「乙」の陽刻がないことから液体一剤式の可能性がある。そうであれば1910（明治43）年から1920（大正9）年の販売である。95は「君か代」「一」「乙」の陽刻があり、過酸化水素水が入っていたことを示す。液体二剤式である。明治末から1944（昭和19）年の資料である。96は「君が代」「定量」「意匠登録」「33656」「HAIRDYE」「KIMIGAYO」の陽刻がある。粉末三剤式の過酸化水素水の容器である。昭和30年代の資料である。

97～103は整髪料瓶である。97・98は椿油瓶である。1932（昭和7）年大坂毎日新聞に広告「本家をぐら屋・白椿」の広告がある。99は明城ポマード本舗（美星堂：1945（昭和20）年創業）の整髪料（ポマードか）である。100～102は「メヌマポマード」である。底面の「メヌマポマード」の陽刻が右から左に表記されている。井田共栄堂（1910（明治43）年創業）の製品で昭和10年頃の資料である。103は製品名、製造元ともに不明であるが、「ポマード」の陽刻が100～102と同じく右から左に施してあることから同時期の資料であろうか。

104～106は化粧水瓶である。104は大正3（1914）年に発売された化粧水「白色美顔水」である。発売元の桃屋順天館は1885（明治18）年創業である。105は1912（明治45）年発売の化粧水「ホーカー液」である。発売元の堀越商会・二八堂は1909（明治42）年の創業である。106は「清顔水」

の陽刻があるが詳細不明である。104・105 と器形の類似点（首部が長く細み、底面形状が四角）から化粧水瓶とした。

107～109 は香水瓶である。107 は胴部に「KINTSURU」の陽刻が見えることから 1927（昭和 2）～1959（昭和 34）年操業の鶴香水株式会社（1959（昭和 34）年「丹頂株式会社」に改名、現マンドラム）の資料である。資料は戦前のものである。108・109 は大阪市所在のサハラ香水香油所の香油瓶である。1928（昭和 3）年「人事興信録」に佐原忠次郎が香水香油業を営む記述がある。底面にある「2」（108）、「3」（109）の陽刻があり、「2」の資料のほうが幅が大きいことから種類・内容量の異なる複数の製品があったと思われる。

110～112 は不明の化粧品瓶である。110 は胴部の「CLUB」陽刻から 1903（明治 36）年創業の株式会社中山太陽堂（現クラブコスメチックス）の瓶である。内容・年代ともに不明である。112 は報告書に図・写真は未掲載であったが昭和 20 年代の資料と報告され、検出した炭窯の時期判定のもとになっている。

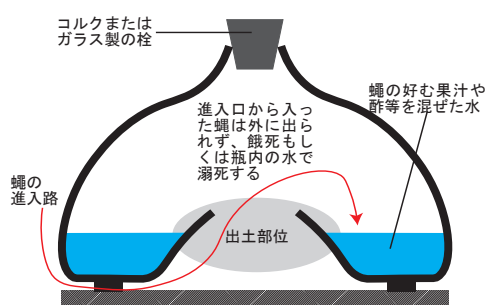
113～124 はインク・墨汁瓶である。113・116 は底面の「M」の陽刻から丸善インクである。丸善は 1885（明治 18）年からインク製造を行っている。114 はオーストリアに本社を置くコレス社のインク瓶である。創業は 1887（明治 20）年である。113・115～119 は口部形状からコルク栓の可能性があり、戦前の資料であると思われる。120 はパイロット 1 オンスインキボトルである。1949（昭和 24）年 9 月～1959（昭和 34）年 12 月製造の資料である。121 は「膳」の陽刻が胴部にあることから、膳写版用のインク瓶と思われる。122 は器形と内面にインクと思われる痕跡が残ることからインク瓶とした。コルク栓であることから戦前か。124 は胴部に「墨の元」の陽刻が施されている。1898（明治 31）年創業の開明株式会社に同名の製品がある。

125・126 は糊瓶である。ともに不易糊工業株式会社の製品である。これらの資料は 1895（明治 28）年の不易糊発売から 1961 年（昭和 36）年の容器がプラスチックに変更されるまでの資料である。

127・128 は玩具である。127 はビー玉である。玩具に分類しているが、ラムネ瓶の玉栓の可能性もある。128 はおはじきである。

129～131 はランプである。129 はホヤと思われる。130・131 は吊りランプ下部の燃料容器と思われる。

132 は蠅取器である。図 7 の網掛け部位が出土した。瓶の底部の口から瓶内の水に混ぜられた果汁や酢の匂いに誘われた蠅が進入するが、蠅は上方にしか飛ばず明るい方向に飛ぶ習性があり進入口からは出られなくなる。瓶内に入った蠅は最終的に餓死か瓶内の水で溺死する。蠅取瓶は明治のころから使用されている製品であるが、



【図 7】蠅取瓶断面模式図

は 1952（昭和 27）年のエアゾール（スプレー）式殺虫剤の発売まで使用されたものであろうか。

IV 不明

製品名等が分からない資料を不明とした。遺跡別に整理している。表 3 の備考に文献やこれまで整理した情報から推測した内容物を記載している。

3 集成の結果から

(1) ガラス瓶観察の視点

ガラス製品を観察するにあたって、以下の視点が必要になる。

（i）陽刻

ガラス製品（特にガラス瓶）には、商品名や会社名等さまざまな文字や記号・目盛等が記されている。古手のガラス製品には陽刻（エンボス）で記されていることが多い。ガラス製品の種類や時期等を考える上で大きな指標となる。時代が下るにつれ洗浄・再利用される牛乳瓶など破損しやすい陽刻は印刷に変化していく。また、横書き表記の場合、陽刻が右から左に書かれているガラス瓶は昭和初期以前の遺物の可能性が高い（大正以前＝「右から左」、大正～昭和初期・戦中＝「右から左」「左から右」混在、戦後＝「左から右」：新聞の表記から）。

（ii）色調・透明度・形状（特に胴～底部）

これは陽刻やラベル等が確認できない場合、瓶等の内容物を推定する際に重要な情報となる。例えば、薬品に関しては直射日光による劣化を抑えるために茶色や濃紺の瓶を用いることが多い。また、化粧クリーム瓶は「不透明白色ガラス」「筒形」「広口」というように、商品イメージで色調や透明度等が決まる場合もある。

（iii）気泡・歪み

明治・大正・戦中までの比較的古手のガラス瓶には気泡や歪みが見られる資料が多いが、戦後は製瓶の進歩により見られなくなる。

（iv）合わせ目

ガラス瓶には首～胴・底部にかけて観察される「合わせ目」がある。合わせ目が残る部位により「人工吹き」か「機械製瓶」かという製瓶方法が分かり製造時期を推定できる手がかりとなる。1916（大正5）年に導入された「自動製瓶機（機械製瓶）」によるガラス瓶には口縁部まで合わせ目残り、それ以前の「人工吹き」では合わせ目は残らず口縁～首部が歪む傾向がある。また、時代が下るにしたがい、合わせ目は細く目立たなくなる傾向にある。

（v）口縁（栓）の形状

口縁の形状により、紙栓・コルク栓・機械栓・王冠栓等が区別できる。前述のとおりビール瓶や牛乳瓶等、器種の栓の種類によりある程度の時期が判別できる場合がある。

今後、報告書等にガラス製品を報告する際、図や観察表に上記の情報が含まれることを望む。

（2）戦時資料としてのガラス製品

今年(2021年)で戦後76年となる。語り部となる戦争体験者は年を追うごとに減少し、日中戦争・太平洋戦争を語るのは「ヒト」から「モノ」へ否応もなく変化していく。本県出土の戦中遺物としては、宮ノ東遺跡出土の「組合目薬（一口タタキ点眼瓶）(39)」「肉弾三勇士陽刻入りニッキ水瓶（68）」、都城市所在の八幡遺跡出土の都城空襲の際に溶けたガラス瓶等、戦争を物語る資料がある。「一口タタキ点眼瓶」は「両口式点眼瓶」で使用されていたゴムの供給不足により登場した国内の物資不足を背景とした資料である。陽刻された「組合」とは戦時統制経済の中、1941（昭和16）年結成された「全国購買販売組合連合会」を指す。またニッキ水は本来子供向けの清涼飲料水であるが、「肉弾三勇士」の陽刻を瓶に施すことにより、子どもを含む国民の戦意高揚を狙った資料である。軍部とマスコミにより「創られた肉弾三勇士美談」（増子 2015）が民衆の生活の中に浸透していく様子が分かる資料である。なお宮ノ東遺跡が所在する旧岡富村では、昭和20（1945）年4月21日に岡富村公会堂の爆撃（西都市史 2016）時と思われる爆弾破裂痕が検出され、爆弾翼部・機銃弾丸・薬莢が検出されている。都城市八幡遺跡出土の「空襲で溶けたガラス瓶（194）」は、ガラスの溶解温度が800～1000度であることを考えると都城空襲の激しさを

物語っている。これらの戦時下の遺物が大战中の人々の生活の様子を物語ってくれるのではないかと考える。

4 おわりにかえて

集成を行うまで近現代遺物であるガラス製品の報告例は少ないと考えていた。しかし集成を行った結果、195例の報告がなされていた。他の時代の遺物と比べれば決して多い数字ではないが、これだけの数が報告されていたことは意外であった。

宮ノ東遺跡の発掘調査から始めた集成作業は一段落したが、今後は今回不明とした資料の再調査と他の遺構・遺物との関係性などを追いかけていきたいと考えている。

最後に、本稿を執筆するにあたり、近現代遺物を取り上げていただいた発掘調査員とご指導いただいた関係各位に謝意を表し、まとめとする。

参考文献

- 桜井準也 2006 『ガラス瓶の考古学』 六一書房
- 平成ボトル倶楽部 2017 日本のレトロびん：明治初期から平成までのレアコレクション グラフィック社
- 山本孝造 1990 『びんの話』 日本能率協会
- 小林謙一・渡辺貴子 2002 「物質文化研究としての近現代考古学の課題-大橋遺跡出土の近現代ガラス容器の討から-」『東京考古』第20号
- 深谷市教育委員会 1997 『埼玉県深谷市埋蔵文化財発掘調査報告書51：深谷城跡（第5次）』 深谷市教育委員会
- 大橋清信 1999 「英国の薬方コロダインと日本の売薬『神薬』」 薬史学雑誌 34 (2)
- 増子保志 2015 「創られた戦争美談-肉弾三勇士と戦争美談」 国際情報研究 12 (1)
- 秋山久美子 2005 「清涼飲料水（ラムネ・サイダー）の近代史」 学苑 778
- 「3 酪農の変遷」 1992 宮崎県史 資料編 民族1 宮崎県
- 森貴教 2017 「牛乳瓶の分類と編年：福岡県を対象として」 民具マンスリー 50 (6)
- 「三 戦争の激化と庶民の生活」 2016 西都市史 通史編 下巻 西都市
- 内藤記念くすり博物館 HP『薬の記念館』 <http://www.eisai.co.jp/museum/index.html>
- 北多摩薬剤師会 HP『おくすり博物館』 <https://www.tpa-kitatama.jp/museum/index.html>
- 日本ガラスびん協会 HP <http://glassbottle.org/>
- ちょっと詳しい白髪染の歴史 HP <https://graycolor-history.jp/>
- ロート製薬株式会社 HP <https://www.rohto.co.jp/>
- 「ビールを飲む器とビールの容器 (6) コルク栓から王冠栓へ キリン歴史ミュージアム」 キリンホールディングス https://museum.kirinholdings.com/history/theme/b14_12f.html
- 「ガラス瓶からくるめの近代化を探る 新・筑紫湯の風」 <http://tsukushigata.webcrow.jp/garasubin.html>

【表3】宮崎県下出土のガラス製品一覧

○大分類・中分類・小分類は表1による。 ○色調～無＝無色 透＝透明 不＝不透明 ○時期～明＝明治 大＝大正 昭＝昭和 ○栓～コ＝コルク栓 機＝機械栓 ネ＝ネジ栓 ゴ＝ゴム栓 紙＝紙栓 蓋＝被せ式									
報告書 遺物No.	出土位置	大中 分類	小分類	色調	時期	栓	陽刻	備考	遺跡名
1 4394	S1021 (石垣裏込)	I (1)	①医療用薬品瓶	淡緑透	昭	コ	胴：目盛「○木医院」		宮ノ東遺跡
2 4407	S2138 (防空壕)	I (1)	①医療用薬品瓶	淡緑透	昭	コ	胴：目盛		宮ノ東遺跡
3 4440	S2138 (防空壕)	I (1)	①医療用薬品瓶	無透	昭	コ	胴：「米良医院」		宮ノ東遺跡
4 4441	S4742 (溝状遺構)	I (1)	①医療用薬品瓶	無透	昭	コ	胴：「米良医院」		宮ノ東遺跡
5 4442	表土	I (1)	①医療用薬品瓶	無透	昭	コ	胴：「米良医院」		宮ノ東遺跡
6 4439	クワッド一括	I (1)	①医療用薬品瓶	無透	昭	コ	胴：「菊池医院」		宮ノ東遺跡
7 4443	表土	I (1)	①医療用薬品瓶	無透	昭	コ	胴：「○院」		宮ノ東遺跡
8 94	SC4 (土坑)	I (1)	①医療用薬品瓶	無透	昭	コ	胴：目盛		中町遺跡 (第5次調査)
9 95	SC4 (土坑)	I (1)	①医療用薬品瓶	無透	昭	コ	胴：目盛		中町遺跡 (第5次調査)
10 98	SC4 (土坑)	I (1)	①医療用薬品瓶	無透	昭	コ	胴：「柏村小児成人内科」・ 目盛		中町遺跡 (第5次調査)
11 99	SC4 (土坑)	I (1)	①医療用薬品瓶	無透	昭	コ	胴：「小牧胃腸病療院」・目 盛		中町遺跡 (第5次調査)
12 100	SC4 (土坑)	I (1)	①医療用薬品瓶	無透	昭	コ	胴：目盛		中町遺跡 (第5次調査)

宮崎県内出土の近現代ガラス製品の報告例について（竹田 享志）

○大分類・中分類・小分類は表1による。 ○色調～無＝無色 透＝透明 不＝不透明 ○時期～明＝明治 大＝大正 昭＝昭和 ○枠～コ＝コルク栓 機＝機械栓 ネ＝ネジ栓 ゴ＝ゴム栓 紙＝紙栓 蓋＝被せ式									
No.報告書 遺物No.	出土位置	大中 分類	小分類	色調	時期	栓	陽刻	備考	遺跡名
13 101	SC4（土坑）	I (1)	①医療用薬品瓶	無透	昭	コ	胴：目盛		中町遺跡（第5次調査）
14 150	SC5（土坑）	I (1)	①医療用薬品瓶	無透	昭	コ	胴：目盛 底面：「10」		中町遺跡（第5次調査）
15 417	SC65（土坑）	I (1)	①医療用薬品瓶	無透	昭	コ	胴：目盛陽刻	コルク栓残存	中町遺跡（第5次調査）
16 図無	階段付き土坑	I (1)	②アンプル		昭？				野首第2遺跡
17 図無	階段付き土坑	I (1)	③注射器		昭？				野首第2遺跡
18 120	現代ゴミ穴	I (2)	①一般用薬品瓶	茶透	昭20～30	ネ	胴：「KOBAYASHI TAMUSHITINCTURE」	小林製薬「タムシチンキ」。 昭和20年代後半～30年代 頃のゴミ穴より出土	永牟田第2遺跡
19 4423	表土	I (2)	①一般用薬品瓶	濃藍透	明-大-昭	コ	胴：「アサヒ精神薬」「日朝 製薬株式会社」		宮ノ東遺跡
20 4424	表土	I (2)	①一般用薬品瓶	濃藍透	明-大-昭	コ	胴：「神薬」「株式会社精壽 堂」		宮ノ東遺跡
21 4425	チリ山	I (2)	①一般用薬品瓶	淡藍透	明-大-昭	コ	胴：「神薬」		宮ノ東遺跡
22 4426	チリ山	I (2)	①一般用薬品瓶	濃藍透	明-大-昭	コ	胴：「神薬」「富製薬株式会 社」		宮ノ東遺跡
23 4427	表土	I (2)	①一般用薬品瓶	濃茶透	明-大-昭	コ	胴：「トヤマ」「神薬」「株 式会社廣貴堂」	株式会社廣貴堂（富山県、 明治9年～）	宮ノ東遺跡
24 4428	表土	I (2)	①一般用薬品瓶	無透	昭20代	ネ	底：「丹平」	丹平商会（現丹平製薬株式 会社）「今治水」	宮ノ東遺跡
25 4429	チリ山	I (2)	①一般用薬品瓶	濃緑透	昭	ネ	胴：「ドラミン」「貴仙堂」	貴仙堂（鹿児島県の製薬会 社）。(戦前：昭和17年新 聞に広告あり)	宮ノ東遺跡
26 92	SC4（土坑）	I (2)	①一般用薬品瓶	茶半		ネ？	底面：「☆」	蓋残存	中町遺跡（第5次調査）
27 93	SC4（土坑）	I (2)	①一般用薬品瓶	コバルト 半透	明-大	コ	胴：「黄金水」「愛生堂」	藤井愛生堂（宇都宮市）（明 治～大正7年）	中町遺跡（第5次調査）
28 149	SC5（土坑）	I (2)	①一般用薬品瓶	白不	大-昭	ネ？	底：「MENTHOLATUM」「REG. 」「TRADE MARK」	蓋残存、近江兄弟社「メン ソール・タム」か？（1920～ 1974）、輸入瓶	中町遺跡（第5次調査）
29 399	SC63（土坑）	I (2)	①一般用薬品瓶	コバルト 半透	明-大	コ	胴：「神薬」「資生堂製」 「SHISEDO TOKIO」 「DISPENSARY」	中田資生堂（明治中～大正 初）	中町遺跡（第5次調査）
30 564	SC108（土坑）	I (2)	①一般用薬品瓶	無透		ネ	底面○△エンボス	蓋残存、武田薬品錠剤瓶 か？	中町遺跡（第5次調査）
31 91	SC4（土坑）	I (2)	①一般用薬品瓶	茶半透	昭10代	コ	首：「わかもと」 胴部： 「Wakamoto」 上段・下段全 周：3本ライン2組 底： 「11」「NAGA」「8 9 C」	整腸剤「わかもと」（昭和4 年発売）	中町遺跡（第5次調査）
32 146	SC5（土坑）	I (2)	①一般用薬品瓶	茶半透	昭10代	コ	首：「わかもと」 胴： 「Wakamoto」 上段・下段全 周：3本ライン2組 底： 「3」「NAGA」「8 9 O」	整腸剤「わかもと」（昭和4 年発売）	中町遺跡（第5次調査）
33 147	SC5（土坑）	I (2)	①一般用薬品瓶	茶半透	昭10代	コ	首：「わかもと」 胴： 「Wakamoto」 上段・下段全 周：3本ライン2組 底： 「1」「NAGA」「10 9 B」	整腸剤「わかもと」（昭和4 年発売）	中町遺跡（第5次調査）
34 157	包含層	I (2)	①一般用薬品瓶	青透	明-大-昭	コ	胴：「神薬」		南御屋跡跡
35 4431	チリ山	I (2)	②目薬瓶	淡藍透	明-大-昭初	コ	胴：「帝國製薬株式会社」	帝國製薬株式会社（1918～）	宮ノ東遺跡
36 4437	S4142（土坑）	I (2)	②目薬瓶	濃茶透	明-大-昭初	コ	胴：「めぐすり鎮眼水」「肥 前神埼大隈南陽堂製」		宮ノ東遺跡
37 4438	チリ山	I (2)	②目薬瓶	淡桃透	明-大-昭初	コ			宮ノ東遺跡
38 4432	表土	I (2)	②目薬瓶	濃藍透	昭6～	ゴ		両口式点眼瓶	宮ノ東遺跡
39 4433	表土	I (2)	②目薬瓶	無透	昭（戦中）	ネ	胴：「組合目薬」	「組合」全国購買販売組合 連合会（昭和16年）、一口 タタキ点眼瓶	宮ノ東遺跡
40 4436	チリ山	I (2)	②目薬瓶	淡桃透	昭27	ネ		蓋残、ロートベニマイ目薬 （昭和27年発売、両口式点 眼瓶）	宮ノ東遺跡
41 4434	表土	I (2)	②目薬瓶	淡茶透	昭33	ネ		蓋残、新ロート目薬（昭和 33年発売）、両口式点眼瓶	宮ノ東遺跡
42 4435	表土	I (2)	②目薬瓶	無透	昭（戦後）	ネ		両口式点眼瓶	宮ノ東遺跡
43 197	表土	I (2)	②目薬瓶		昭13頃	ゴ	胴：「目薬 ヒウン水」「本 舗 田原製薬会社」	蓋残存、昭和13年広告、 表裏に写真あり。福岡県「田 原製薬会社」、両口式点眼 瓶	岡遺跡（第9次調査）
44 156	包含層	I (2)	②目薬瓶	青透	明-大-昭初	コ	胴：「加村目薬」「加村薬房」		南御屋跡跡
45 657	SC133（土坑）	I (2)	②目薬瓶	無透	明-大	コ	胴：「目薬」「上池液」	徳島県「富松武助謹製」	中町遺跡（第5次調査）
46 398	SC63（土坑）	I (2)	②目薬瓶	無透	明32～昭7	コ	胴：「大學目薬」「参天堂薬 房」		中町遺跡（第5次調査）
47 145	SC5（土坑）	I (2)	②目薬瓶	コバルト 半透	昭6～	ゴ	胴：「EYE WATER ROHTO」	ロート目薬、両口式点眼瓶	中町遺跡（第5次調査）
48 写真		I (2)	②目薬瓶		明-大-昭初	コ			高岡麓遺跡
49 写真		I (2)	②目薬瓶		明-大-昭初	コ			高岡麓遺跡
50 写真		I (2)	②目薬瓶			コ			高岡麓遺跡
51 写真		I (2)	②目薬瓶		昭6～	コ	胴：「EYE WATER ROHTO」	ロート目薬、両口式点眼瓶	高岡麓遺跡
52 113	SC4（土坑）	I (2)	③揮発油瓶	青半透	昭23	コ	胴：「ライジングサン石油 株式会社精製品」	ライジングサン石油株式会 社（現出光興産株式会社・ 旧昭和シェル石油）1900（明 治33）～1948（昭和23年）	中町遺跡（第5次調査）
53 116	SC4（土坑）	I (2)	④殺虫剤瓶	青半透	昭37年	王	胴：「専賣特許」「フマキラ ー」「發賣本舗」「大下回春 堂」	株式会社フマキラー（昭和 37年「大下回春堂より社名 変更」）	中町遺跡（第5次調査）
54 114	SC4（土坑）	I (2)	④殺虫剤瓶	茶半透		王	胴：「専賣特許」「ハイカチ ー」、底面：「○」「△」「7」		中町遺跡（第5次調査）
55 13	造成土	II (1)	①酒瓶	薄青緑透	昭20前後	王	胴：「3姉話」（左横書き）	容量300ml（「f」）エンボス はデシリットル）※右横書 き：戦前）	旧鶴戸墓地跡
56 12	造成土	II (1)	①酒瓶	薄青緑透	昭20後	王	胴：「3D.LITER」	容量300ml（「f」）エンボス はデシリットル）	旧鶴戸墓地跡
57 373	SC56（土坑）	II (1)	①酒瓶	青半透		機		清酒	中町遺跡（第5次調査）
58 374	SC56（土坑）	II (1)	①酒瓶	青半透		機		清酒	中町遺跡（第5次調査）
59 159	SC5（土坑）	II (1)	①酒瓶	茶半透	大13～	コ	胴：「BEE BRAND KOZAN WINE」「R.KONDO & CO TOKYO」	ワイン、商標出願年1923 年登録年1924年	中町遺跡（第5次調査）
60 371	SC56（土坑）	II (1)	①酒瓶	茶半透		コ		ワイン	中町遺跡（第5次調査）
61 372	SC56（土坑）	II (1)	①酒瓶	茶半透		コ		ワイン	中町遺跡（第5次調査）
62 408	SC63（土坑）	II (1)	①酒瓶	緑半透		コ？		ワイン	中町遺跡（第5次調査）
63 写真		II (1)	①酒瓶			コ		ワイン	別府町遺跡
64 406	SC63（土坑）	II (1)	①酒瓶	茶半透	明40～45	コ	胴：「キリンビール」TKIRIN BREWERY CO」	ビール	中町遺跡（第5次調査）
65 157	SC5（土坑）	II (1)	①酒瓶	茶半透	大-昭（戦中）	一	胴：「登録商標KB」	ビール、麒麟麦酒	中町遺跡（第5次調査）
66 405	SC63（土坑）	II (1)	①酒瓶	茶半透	明31～昭18	王	胴：「KABUTO BEER」	ビール	中町遺跡（第5次調査）
67 4450	グリッド一括	II (1)	②清涼飲料瓶	淡緑透	大～昭？	コ？		ニッキ水	宮ノ東遺跡

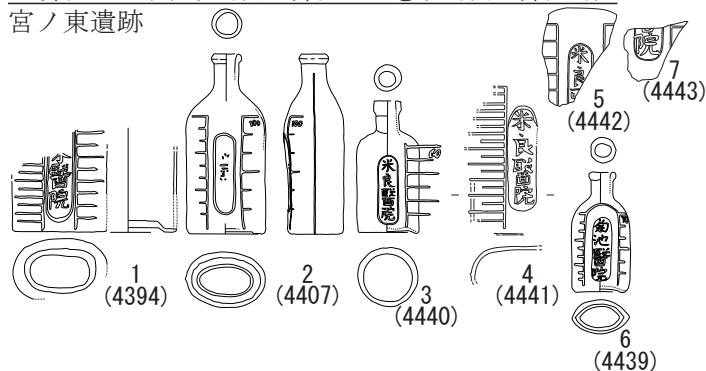
○大分類・中分類・小分類は表1による。 ○色調～無＝無色 透＝透明 不＝不透明 ○時期～明＝明治 大＝大正 昭＝昭和 ○枠＝コ＝コルク枠 機＝機械枠 ネ＝ネジ枠 ゴ＝ゴム枠 紙＝紙枠 蓋＝被せ式										
No.	報告書 遺物No.	出土位置	大分類	小分類	色調	時期	枠	陽刻	備考	遺跡名
68	4451	グリッド一括	Ⅱ (1)	②清涼飲料瓶	淡緑透	昭(戦中)	コ?	胴:「肉弾三勇士の顔」	ニッキ水、「肉弾三勇士」(昭和7年)	宮ノ東遺跡
69	156	SC5(土坑)	Ⅱ (1)	②清涼飲料瓶	緑半透	明39-昭24	一	胴:「商標」「DNB」「大日本麦酒株式会社製造」	サイダー、大日本麦酒株式会社(1906(明治39)～1949(昭和24))	中町遺跡(第5次調査)
70	180	SC5(土坑)	Ⅱ (1)	②清涼飲料瓶	緑半透		一		ラムネ、内部にガラス玉	中町遺跡(第5次調査)
71	写真		Ⅱ (1)	②清涼飲料瓶	無透		一			高岡麓遺跡
72	186	SC5(土坑)	Ⅱ (1)	③牛乳瓶	無透		ネ	胴:「蒸気」「消毒」「全乳」	ニッキ水	中町遺跡(第5次調査)
73	89	SC4(土坑)	Ⅱ (1)	③牛乳瓶	無透	昭9-36	王	胴:「都城牛乳株式会社」「高温」「滅菌」「全乳」	都城牛乳(昭和9年～36年)	中町遺跡(第5次調査)
74	90	SC4(土坑)	Ⅱ (1)	③牛乳瓶	無透		王	胴:「高温」「滅菌」「全乳」	王冠残存	中町遺跡(第5次調査)
75	4452	S4142(土坑)	Ⅱ (1)	③牛乳瓶	無透	昭31-	紙	胴:マルショウマーク 底面:「石」「6」「G」	マルショウマークは昭和26(1951)年の計量法制定後、昭和31(1956)年より付号。石塚硝子製	宮ノ東遺跡
76	375	SC56(土坑)	Ⅱ (1)	④不明	緑半透		王			中町遺跡(第5次調査)
77	158	SC5(土坑)	Ⅱ (2)	①調味料瓶	無透	明43-昭2	コ	バチ瓶	味の素か。資料は1910(明治43)年～1927(昭和2)年(スクリュー栓瓶使用開始年)※バチ瓶は1950年代で消滅	中町遺跡(第5次調査)
78	4408	S2138(防空壕)	Ⅱ (2)	①調味料瓶	無透	昭24-38	王	底:「AICHI TOMATO CO. 55」六芒星	愛知トマト株式会社(1949年)～カゴメ株式会社(1963年)	宮ノ東遺跡
79	122	現代ゴミ穴	Ⅱ (2)	①調味料瓶		昭15-31	王	胴:「IKARI SOUCE CO. LTD」底:イカリマーク	イカリソース 350ml。昭和15年～31年製造。	永牟田第2遺跡
80	図・写真	造成土	Ⅱ (3)	①一升瓶		大昭初	一			恒富中学校地点
81	4404	S2138(防空壕)	Ⅲ (1)	①化粧クリーム瓶	白不		ネ			宮ノ東遺跡
82	4420	表土	Ⅲ (1)	①化粧クリーム瓶	白不	昭4-	ネ	底:ウテナマーク 蓋上面:ウテナマーク	蓋残存、ウテナクリーム(昭和4年発売・久保政吉商会のちのウテナ)	宮ノ東遺跡
83	102	SC4(土坑)	Ⅲ (1)	①化粧クリーム瓶	白不		ネ			中町遺跡(第5次調査)
84	103	SC4(土坑)	Ⅲ (1)	①化粧クリーム瓶	白不		ネ			中町遺跡(第5次調査)
85	107	SC4(土坑)	Ⅲ (1)	①化粧クリーム瓶	乳白不		蓋?		小型、試供品か	中町遺跡(第5次調査)
86	108	SC4(土坑)	Ⅲ (1)	①化粧クリーム瓶	白不		蓋?		小型、試供品か	中町遺跡(第5次調査)
87	152	SC5(土坑)	Ⅲ (1)	①化粧クリーム瓶	白不		蓋?	底:クローバーマーク	合資会社三葉商会?	中町遺跡(第5次調査)
88	384	SC59(土坑)	Ⅲ (1)	②白髪染瓶	無透	明38-	コ	胴:カラスマーク	千代めれ羽(服部松栄堂、明治38年～大正)、液体一割式	中町遺跡(第5次調査)
89	4411	S2138(防空壕)	Ⅲ (1)	②白髪染瓶	無透	明38-	コ	胴:カラスマーク	千代めれ羽(服部松栄堂、明治38年～大正)、液体一割式	宮ノ東遺跡
90	4400	S2138(防空壕)	Ⅲ (1)	②白髪染瓶	無透		コ	底:「定量」	酸化剤用か	宮ノ東遺跡
91	4414	チリ山	Ⅲ (1)	②白髪染瓶	無透		ネ	胴:「るり羽」「定量」「過酸化水素水」「大阪堂島」「山発産業」	るり羽(1946年～山発産業株式会社)	宮ノ東遺跡
92	4415	表土	Ⅲ (1)	②白髪染瓶	無透	明末-大	ネ	胴:「わか君」		宮ノ東遺跡
93	4416	表土	Ⅲ (1)	②白髪染瓶	無透	明末-大	ネ	胴部:「わかきみ」		宮ノ東遺跡
94	4417	表土	Ⅲ (1)	②白髪染瓶	淡緑透	明末-大	コ	胴部:「君が代」	山吉商店・明治43年発売、液体二割式(明治43年以降)、染料瓶か。	宮ノ東遺跡
95	4418	S7109(土坑)	Ⅲ (1)	②白髪染瓶	淡緑透	明末-大	ネ	胴:「君が代」「乙」	蓋残存、山吉商店・明治43年発売、酸化剤(「乙」表記)	宮ノ東遺跡
96	4419	チリ山	Ⅲ (1)	②白髪染瓶	無透	昭30	ネ	胴:「君が代」「定量」「意匠登録」「33656」「HAIRDYE」「KIMIGAYO」	山吉商店・明治43年発売	宮ノ東遺跡
97	30	ビット6	Ⅲ (1)	③整髪料瓶	無透	昭初	コ	胴:「小倉油」 底:「登録商標」・紅葉	椿油、昭和7年大坂毎日新聞に広告あり	延岡城下町遺跡第1次
98	4405	S2138(防空壕)	Ⅲ (1)	③整髪料瓶	無透	昭初	コ	胴:「小倉油」 底:「登録商標」・紅葉	97に同じ	宮ノ東遺跡
99	4421	チリ山	Ⅲ (1)	③整髪料瓶	無透		ネ	底:「明城」格子	ボマード、明城ボマード本舗(昭和20年創業)	宮ノ東遺跡
100	104	SC4(土坑)	Ⅲ (1)	③整髪料瓶	白不	昭10-	ネ	底:「メヌマボマード」	ボマード、井田京栄堂(明治43年創業)	中町遺跡(第5次調査)
101	105	SC4(土坑)	Ⅲ (1)	③整髪料瓶	白不	昭10-	ネ	底:「メヌマボマード」	100に同じ	中町遺跡(第5次調査)
102	106	SC4(土坑)	Ⅲ (1)	③整髪料瓶	白不	昭10-	ネ	底:「メヌマボマード」	100に同じ	中町遺跡(第5次調査)
103	151	SC5(土坑)	Ⅲ (1)	③整髪料瓶	緑半透		一	底:「ボマード」	ボマード	中町遺跡(第5次調査)
104	4403	S2138(防空壕)	Ⅲ (1)	④化粧水瓶	無透	大3-	コ	底:「桃にトンボ」図案	白色美顔水(大正3(1914)年発売)、桃屋順天館(明治18年創業)	宮ノ東遺跡
105	4422	表土	Ⅲ (1)	④化粧水瓶	無透	明末-	コ	胴:「ホーカー液」「堀越」 底:「九」	ホーカー液(明治45年発売)、堀越商会・二八堂(明治42年創業)	宮ノ東遺跡
106	690	SC144(土坑)	Ⅲ (1)	④化粧水瓶	無透		コ	胴:「清顔水」		中町遺跡(第5次調査)
107	3	確認トレンチ	Ⅲ (1)	⑤香水瓶		昭初-34	一	胴:「KINTSURU」	金鶴香水株式会社(現マノンタム)1927(昭和2)～1959(昭和34)創業	馬場畑遺跡
108	39	溝状遺構	Ⅲ (1)	⑤香水瓶		大昭	コ	胴:「サハラ香油」 底:「3」	サハラ香水香油所(大阪市)昭和3年「人事興信録」に佐原忠次郎が香水香油業を営む記述あり	延岡城内遺跡第8次
109	40	溝状遺構	Ⅲ (1)	⑤香水瓶		大昭	コ	胴:「サハラ香油」 底:「2」	108に同じ	延岡城内遺跡第8次
110	185	SC5(土坑)	Ⅲ (1)	⑥不明	無透		ネ	胴:「CLUB」	クラブ化粧品1903(明治36)～	中町遺跡(第5次調査)
111	109	SC4(土坑)	Ⅲ (1)	⑥不明	無透		一			中町遺跡(第5次調査)
112	図・写真	ドーム型灰窯	Ⅲ (1)	⑥不明	無透		一		昭和20年、本遺物から遺構年代を推定	平山下原遺跡
113	4412	S2138(防空壕)	Ⅲ (2)	①インク瓶	淡緑透	明18-	コ	底:「M」	丸善製(インキ製造明治18年開始)	宮ノ東遺跡
114	4413	S2138(防空壕)	Ⅲ (2)	①インク瓶	無透	明20-	ネ	胴:「KORES INK」 底:「KORES」	オーストリア「コレス社」(1887年～)	宮ノ東遺跡
115	111	SC4(土坑)	Ⅲ (2)	①インク瓶	無透		コ	底:「S」		中町遺跡(第5次調査)
116	154	SC5(土坑)	Ⅲ (2)	①インク瓶	無透	明18-	コ	底:「登録」「M」	丸善製(インキ製造明治18年開始)、アテナインキか?	中町遺跡(第5次調査)
117	410	SC63(土坑)	Ⅲ (2)	①インク瓶	無透		コ			中町遺跡(第5次調査)
118	411	SC63(土坑)	Ⅲ (2)	①インク瓶	無透		コ			中町遺跡(第5次調査)
119	412	SC63(土坑)	Ⅲ (2)	①インク瓶	無透		コ			中町遺跡(第5次調査)
120	121	現代ゴミ穴	Ⅲ (2)	①インク瓶		昭24-34	ネ	胴:「PILOT」「MAID IN JAPAN 17」	蓋残存、パイロット1オンスインキボトル、昭和24年9月～昭和34年12月製造	永牟田第2遺跡

宮崎県内出土の近現代ガラス製品の報告例について (竹田 享志)

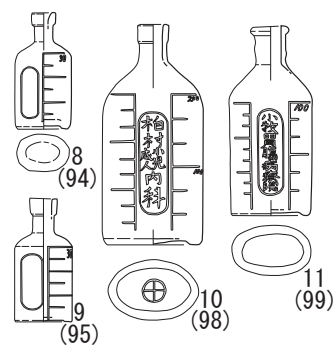
○大分類・中分類・小分類は表1による。 ○色調～無＝無色 透＝透明 不＝不透明 ○時期～明＝明治 大＝大正 昭＝昭和 ○栓＝コ＝コルク栓 機＝機械栓 ネ＝ネジ栓 ゴ＝ゴム栓 紙＝紙栓 蓋＝被せ式										
No.	報告書 遺物No.	出土位置	大中 分類	小分類	色調	時期	栓	陽刻	備考	遺跡名
121	28	ビット6	Ⅲ (2)	①インク瓶	無透	昭	コ	胴：「膳」		延岡城下町遺跡第1次
122	29	ビット6	Ⅲ (2)	①インク瓶	無透	昭	コ	内面にインク付着		延岡城下町遺跡第1次
123	写真		Ⅲ (2)	①インク瓶			—			別府町遺跡
124	158	包含層	Ⅲ (2)	①墨汁瓶	無透	明-大?	コ	胴：「墨の元」	墨汁、1898 (明治31) 年創業開明株式会社	南御屋鋪跡
125	4430	チリ山	Ⅲ (2)	②糊瓶	濃緑透	明28-昭36	ネ	底：「フエキ」	不易糊工業 (1886 (明治19) 年創業)	宮ノ東遺跡
126	110	SC4 (土坑)	Ⅲ (2)	②糊瓶	青半透		ネ	底面「フエキ糊」	125に同じ	中町遺跡 (第5次調査)
127	4453	表土	Ⅲ (3)	①玩具	濃青透		—	断面楕円形	ビー玉	宮ノ東遺跡
128	写真		Ⅲ (3)	①玩具			—		おはじき	高岡麓遺跡
129	4396	S1021 (石垣裏込)	Ⅲ (3)	①ランプ	無透		—		ランプホヤ	宮ノ東遺跡
130	4409	S2138 (防空壕)	Ⅲ (3)	①ランプ	無透		—		ランプ燃料容器	宮ノ東遺跡
131	404	SC63 (土坑)	Ⅲ (3)	①ランプ	無透		—		ランプ燃料容器	中町遺跡 (第5次調査)
132	4395	S1021 (石垣裏込)	Ⅲ (3)	①蠅取器	無透		—		蠅取器	宮ノ東遺跡
133	1127	SR-01 (盛土畦畔)	Ⅳ	①瓶	無透		コ			昌明寺遺跡
134	85	SA-01 (竪穴遺構)	Ⅳ	①瓶		明～大	コ			地主原A区
135	159	包含層	Ⅳ	①瓶	茶透		ネ	「SS」「ア」		南御屋鋪跡
136	38	溝状遺構	Ⅳ	①瓶		大-昭	コ	口縁部に注口・胴部下位に屋号あり	薬品?	延岡城内遺跡第8次
137	27	ビット6	Ⅳ	①瓶	無透	昭	コ		薬品?	延岡城下町遺跡第1次
138	25	ビット6	Ⅳ	①瓶	無透	昭	コ		薬品?	延岡城下町遺跡第1次
139	88	D7 (SD01 溝状遺構)	Ⅳ	①瓶	緑透		—		飲料・殺虫剤?	大久保第2遺跡
140	4389	S1021 (石垣裏込)	Ⅳ	①瓶	無透	明-大	コ		薬品?、時期は遺構年代から	宮ノ東遺跡
141	4390	S1021 (石垣裏込)	Ⅳ	①瓶	無透	明-大	コ		薬品?、時期は遺構年代から	宮ノ東遺跡
142	4391	S1021 (石垣裏込)	Ⅳ	①瓶	淡青透	明-大	コ		薬品?、時期は遺構年代から	宮ノ東遺跡
143	4392	S1021 (石垣裏込)	Ⅳ	①瓶	無透	明-大	—		樟油?、時期は遺構年代から	宮ノ東遺跡
144	4393	S1021 (石垣裏込)	Ⅳ	①瓶	淡藍透	明-大	コ	目盛	薬品?、時期は遺構年代から	宮ノ東遺跡
145	4398	S2138 (防空壕)	Ⅳ	①瓶	淡緑透	昭	コ	底：「A」	染料? 時期は遺構年代から	宮ノ東遺跡
146	4399	S2138 (防空壕)	Ⅳ	①瓶	淡緑透	昭	コ		薬品?、時期は遺構年代から	宮ノ東遺跡
147	4401	S2138 (防空壕)	Ⅳ	①瓶	濃藍透	昭	コ	目盛	薬品?、時期は遺構年代から	宮ノ東遺跡
148	4402	S2138 (防空壕)	Ⅳ	①瓶	無透	昭	コ		薬品?、時期は遺構年代から	宮ノ東遺跡
149	4406	S2138 (防空壕)	Ⅳ	①瓶	無透	昭	コ		インク・樟油?、時期は遺構年代から	宮ノ東遺跡
150	4410	S2138 (防空壕)	Ⅳ	①瓶	無透	昭	コ		インク・白髪染?、時期は遺構年代から	宮ノ東遺跡
151	4444	表土	Ⅳ	①瓶	濃藍透		コ	目盛	薬品?	宮ノ東遺跡
152	4445	表土	Ⅳ	①瓶	淡青透		コ	目盛	薬品?	宮ノ東遺跡
153	4446	S2143 (土坑)	Ⅳ	①瓶	無透		コ		薬品?	宮ノ東遺跡
154	4447	チリ山	Ⅳ	①瓶	無透		コ		インク・樟油?	宮ノ東遺跡
155	4448	チリ山	Ⅳ	①瓶	無透		コ		インク?	宮ノ東遺跡
156	4449	チリ山	Ⅳ	①瓶	無透		ネ	「O K45」	薬品?	宮ノ東遺跡
157	57	SC3 (土坑)	Ⅳ	①瓶	無透	明-大	コ		化粧水?	中町遺跡 (第5次調査)
158	96	SC4 (土坑)	Ⅳ	①瓶	無透		コ		薬品?	中町遺跡 (第5次調査)
159	97	SC4 (土坑)	Ⅳ	①瓶	無透		コ		薬品?	中町遺跡 (第5次調査)
160	115	SC4 (土坑)	Ⅳ	①瓶	青半透		コ	底：「E」「8」	薬品?	中町遺跡 (第5次調査)
161	117	SC4 (土坑)	Ⅳ	①瓶	緑半透	大-昭36	コ		薬品?	中町遺跡 (第5次調査)
162	148	SC5 (土坑)	Ⅳ	①瓶	茶半透		—	胴：「オラホカ」「OLAVOCA」	薬品?	中町遺跡 (第5次調査)
163	153	SC5 (土坑)	Ⅳ	①瓶	無透		コ	底：「一」	化粧水?	中町遺跡 (第5次調査)
164	155	SC5 (土坑)	Ⅳ	①瓶	青半透		ネ		佃煮?	中町遺跡 (第5次調査)
165	160	SC5 (土坑)	Ⅳ	①瓶	緑半透		コ		醤油?	中町遺跡 (第5次調査)
166	376	SC56 (土坑)	Ⅳ	①瓶	青半透		コ		薬品?	中町遺跡 (第5次調査)
167	377	SC56 (土坑)	Ⅳ	①瓶	青半透		王?		薬品?	中町遺跡 (第5次調査)
168	378	SC56 (土坑)	Ⅳ	①瓶	茶半透		コ	底：「TWC」	化粧水?	中町遺跡 (第5次調査)
169	379	SC56 (土坑)	Ⅳ	①瓶	無透		コ		インク?	中町遺跡 (第5次調査)
170	380	SC56 (土坑)	Ⅳ	①瓶	無透		コ		樟油?	中町遺跡 (第5次調査)
171	396	SC63 (土坑)	Ⅳ	①瓶	青半透		王		薬品?	中町遺跡 (第5次調査)
172	397	SC63 (土坑)	Ⅳ	①瓶	青半透		コ		薬品?	中町遺跡 (第5次調査)
173	400	SC63 (土坑)	Ⅳ	①瓶	無透		コ		薬品?	中町遺跡 (第5次調査)
174	401	SC63 (土坑)	Ⅳ	①瓶	無透		コ		薬品?	中町遺跡 (第5次調査)
175	402	SC63 (土坑)	Ⅳ	①瓶	無透		—		顆粒薬品?	中町遺跡 (第5次調査)
176	403	SC63 (土坑)	Ⅳ	①瓶	緑半透		コ		染料?	中町遺跡 (第5次調査)
177	407	SC63 (土坑)	Ⅳ	①瓶	緑半透		王		飲料・調味料?	中町遺跡 (第5次調査)
178	409	SC63 (土坑)	Ⅳ	①瓶	緑半透		—		酒?	中町遺跡 (第5次調査)
179	615	SC132 (土坑)	Ⅳ	①瓶	無透		コ		染料?	中町遺跡 (第5次調査)
180	658	SC133 (土坑)	Ⅳ	①瓶	無透		—		薬品?	中町遺跡 (第5次調査)
181	691	SC144 (土坑)	Ⅳ	①瓶	無透		コ		化粧水?	中町遺跡 (第5次調査)
182	693	SC147 (土坑)	Ⅳ	①瓶	無透		コ		薬品?	中町遺跡 (第5次調査)
183	771	SH1 (特殊土坑)	Ⅳ	①瓶	無透		コ		薬品?	中町遺跡 (第5次調査)
184	772	SH1 (特殊土坑)	Ⅳ	①瓶	無透		コ		薬品?	中町遺跡 (第5次調査)
185	314	ドーム型炭窯	Ⅳ	①瓶	淡緑透	昭20	—	瓶全体に気泡が多い	薬品?	①医療用薬品瓶
186	315	ドーム型炭窯	Ⅳ	①瓶		昭20	—	口縁部は欠損	薬品?	平山下原遺跡
187	112	SC4 (土坑)	Ⅳ	2栓	無透		—			中町遺跡 (第5次調査)
188	385	SC59 (土坑)	Ⅳ	2栓	無透		—			中町遺跡 (第5次調査)
189	773	SH1 (特殊土坑)	Ⅳ	2栓	無透		—			中町遺跡 (第5次調査)
190	写真		Ⅳ	①瓶			コ		薬品?	高岡麓遺跡
191	写真		Ⅳ	①瓶			コ		薬品?	高岡麓遺跡
192	図・写真	客土	Ⅳ	①瓶			—			浄土寺遺跡第1次
193	図・写真	西都原16号墳半地下施設	Ⅳ	①瓶			—		ガラス瓶から遺構年代が判明した事例	西都原16号墳
194	図・写真		Ⅳ	①瓶			—	溶けたガラス塊。都城空襲の被害か。		八幡遺跡
195	図・写真		I (1)	①医療用薬品瓶			—	「坂元医院」		天神遺跡5次

I 薬品 (1) 医療用薬品 ①医療用薬品瓶

宮ノ東遺跡

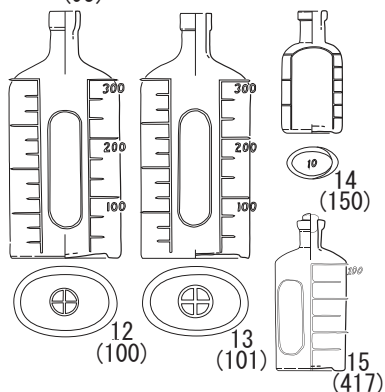


中町遺跡第5次調査

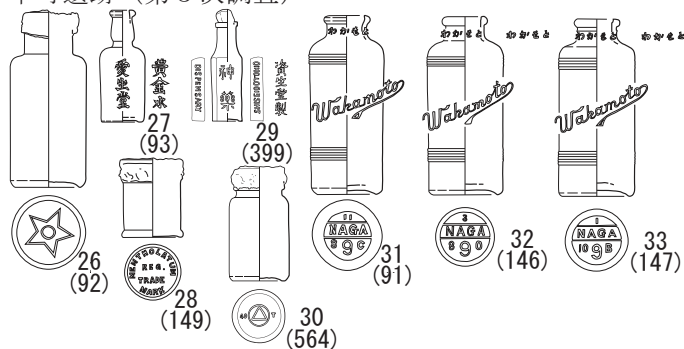


I 薬品 (2) 一般用薬品 ①一般用薬品瓶

永牟田第2遺跡 宮ノ東遺跡



中町遺跡 (第5次調査)

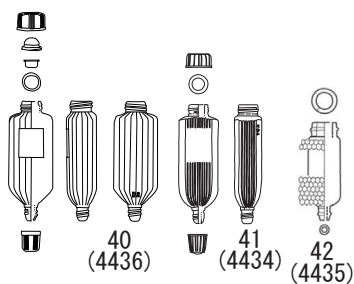
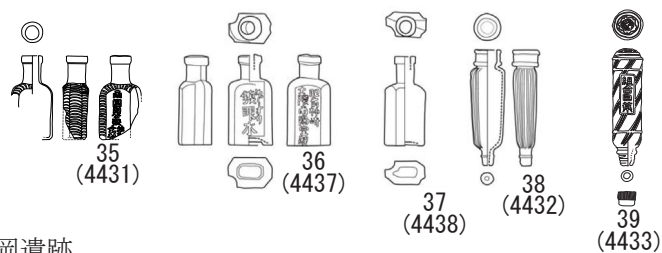


南御屋舗跡

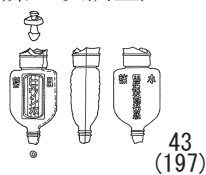


I 薬品 (1) 一般用薬品 ②目薬瓶

宮ノ東遺跡



岡遺跡
(第9次調査)



南御屋舗跡

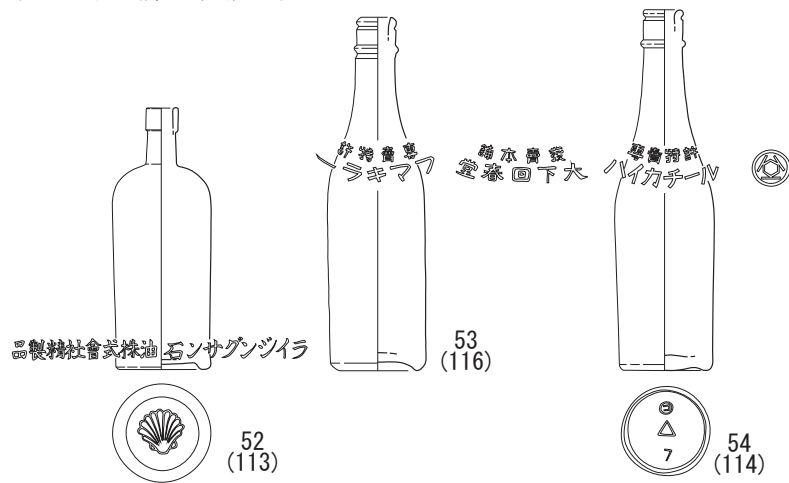


中町遺跡 (第5次調査)



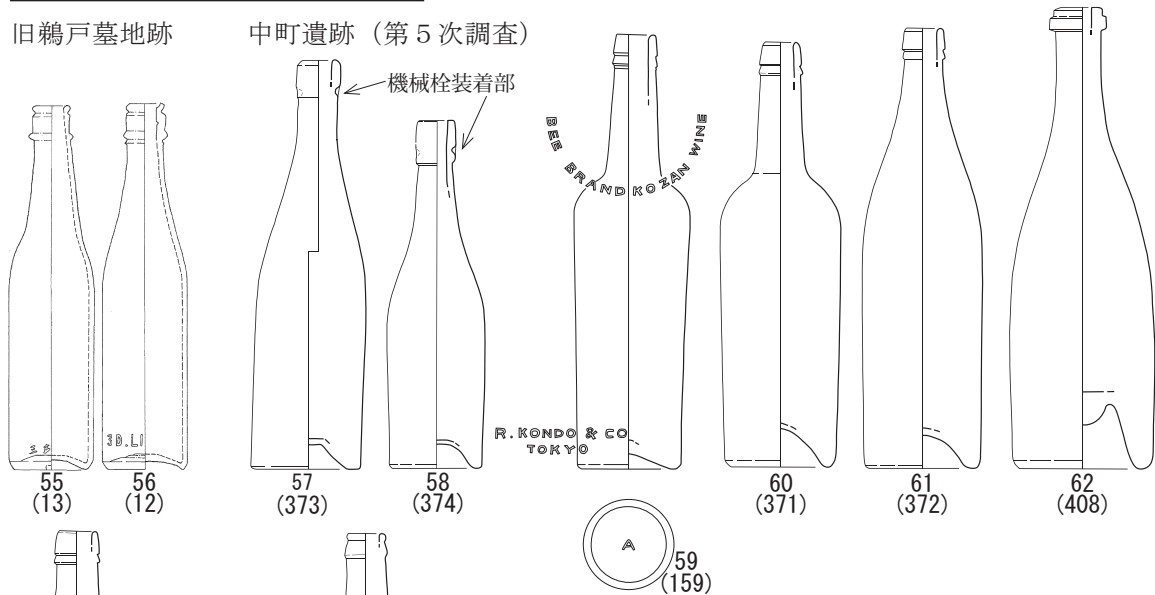
0 10cm
S=1:5

I 薬品 (1) 一般用薬品 ③揮発油瓶 ④殺虫剤瓶
中町遺跡（第5次調査）



II 食品 (1) 飲料 ①酒瓶

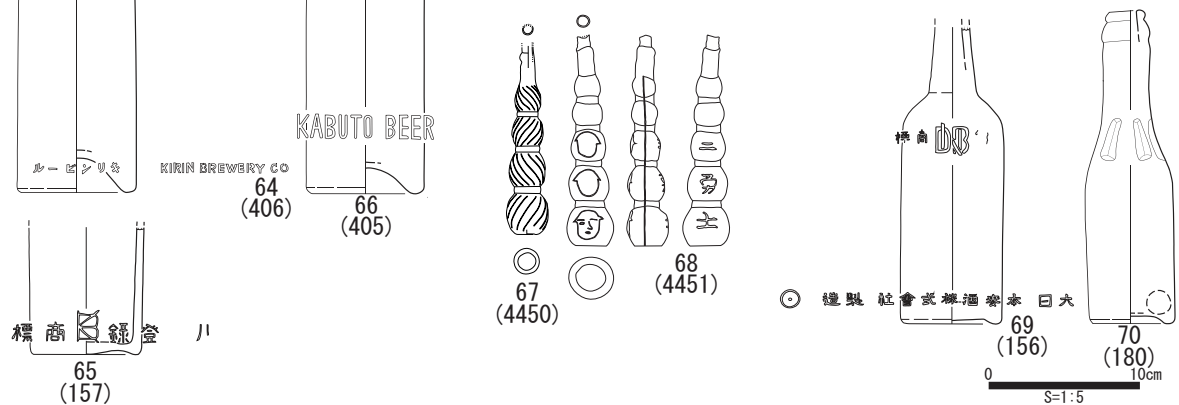
旧鶴戸墓地跡 中町遺跡（第5次調査）



II 食品 (1) 飲料 ②清涼飲料瓶

宮ノ東遺跡

中町遺跡（第5次調査）



II 食品 (1) 飲料 ③牛乳瓶

中町遺跡 (第5次調査) 宮ノ東遺跡

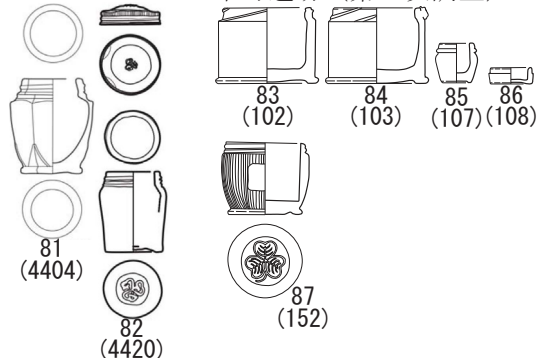


III 日用品

(1) 化粧品 ①化粧クリーム瓶

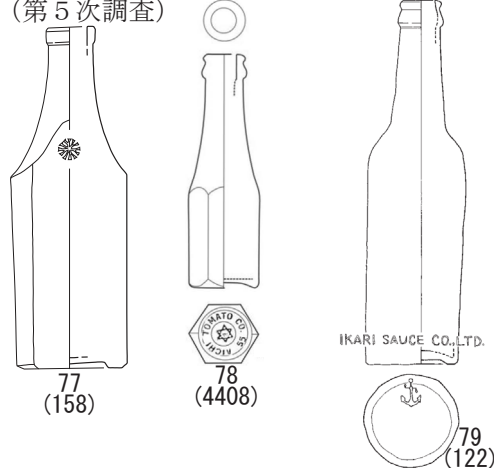
宮ノ東遺跡

中町遺跡 (第5次調査)



II 食品 (2) 食品 ①調味料瓶

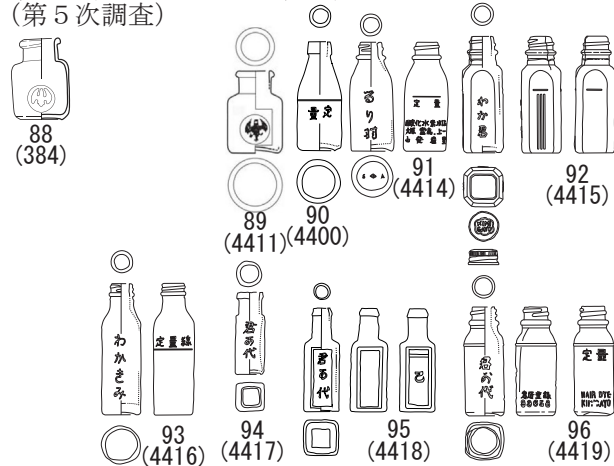
中町遺跡 (第5次調査) 宮ノ東遺跡 永牟田第2遺跡



III 日用品 (1) 化粧品 ②白髪染瓶

中町遺跡 (第5次調査)

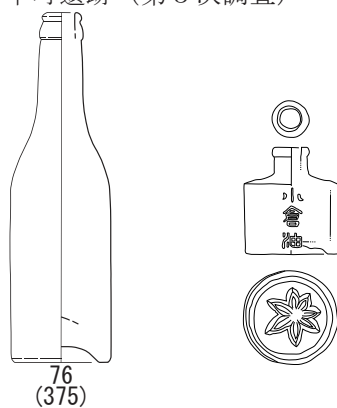
宮ノ東遺跡



II 食品

(1) 飲料 ④不明瓶

中町遺跡 (第5次調査)

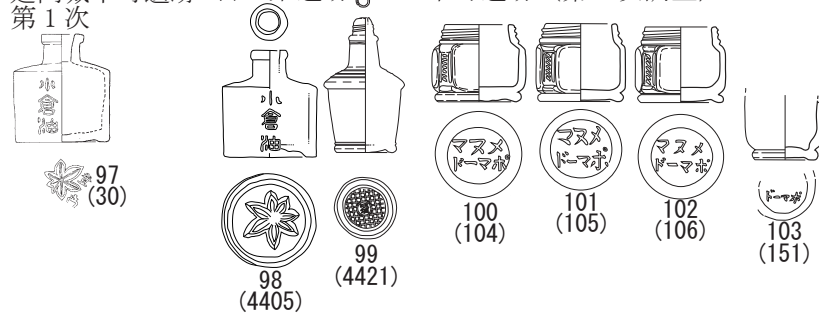


III 日用品 (1) 化粧品 ③整髪料瓶

延岡城下町遺跡 第1次

宮ノ東遺跡

中町遺跡 (第5次調査)



III 日用品

(1) 化粧品 ④化粧水瓶

宮ノ東遺跡

中町遺跡 (第5次調査)

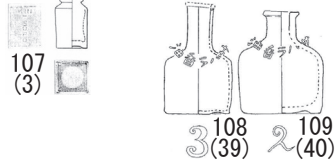


0 10cm
S=1:5

Ⅲ日用品

(1) 化粧品 ⑤香水瓶

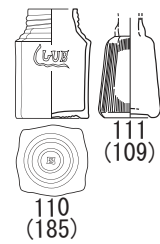
馬場畑遺跡 延岡城内遺跡
第8次



Ⅲ日用品

(1) 化粧品 ⑥不明瓶

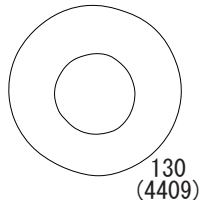
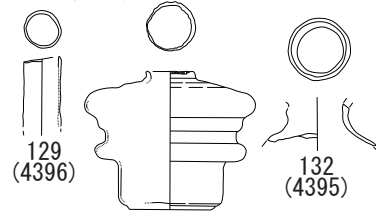
中町遺跡
(第5次調査)



Ⅲ日用品 (3) その他

②ランプ ③ハエ取り瓶

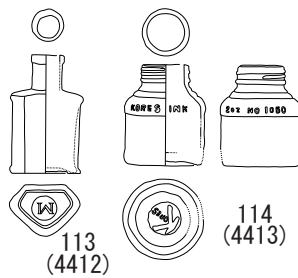
宮ノ東遺跡



Ⅲ日用品 (2) 文具

①インク瓶・墨汁瓶

宮ノ東遺跡



Ⅲ日用品

(2) 文具

宮ノ東遺跡

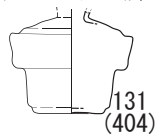


(2) 糊瓶

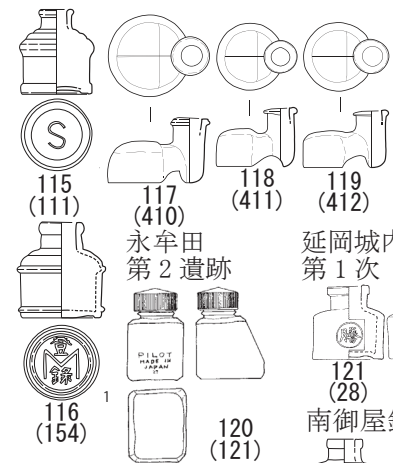
中町遺跡
(第5次調査)



中町遺跡 (第5次調査)



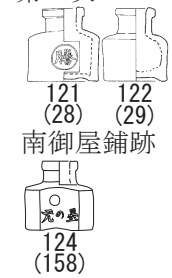
中町遺跡 (第5次調査)



永牟田
第2遺跡



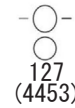
延岡城内遺跡
第1次



Ⅲ日用品

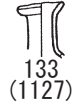
(3) その他 ①玩具

宮ノ東遺跡



Ⅳ不明 ①瓶

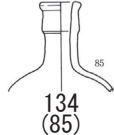
昌明寺遺跡



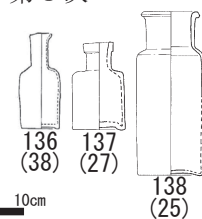
南御屋鋪跡



地主原A区



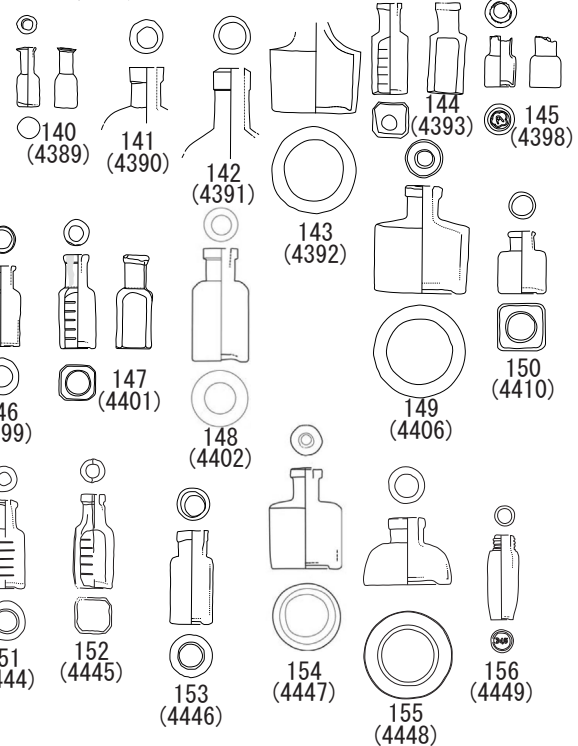
延岡城下町遺跡
第8次



大久保
第2遺跡

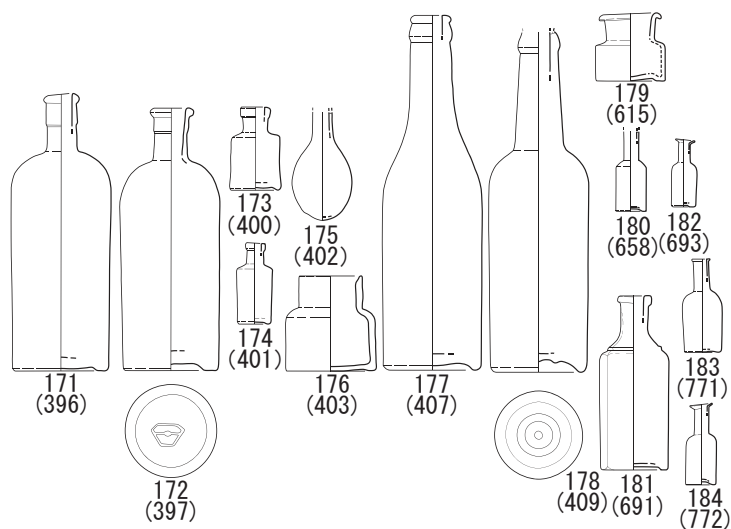
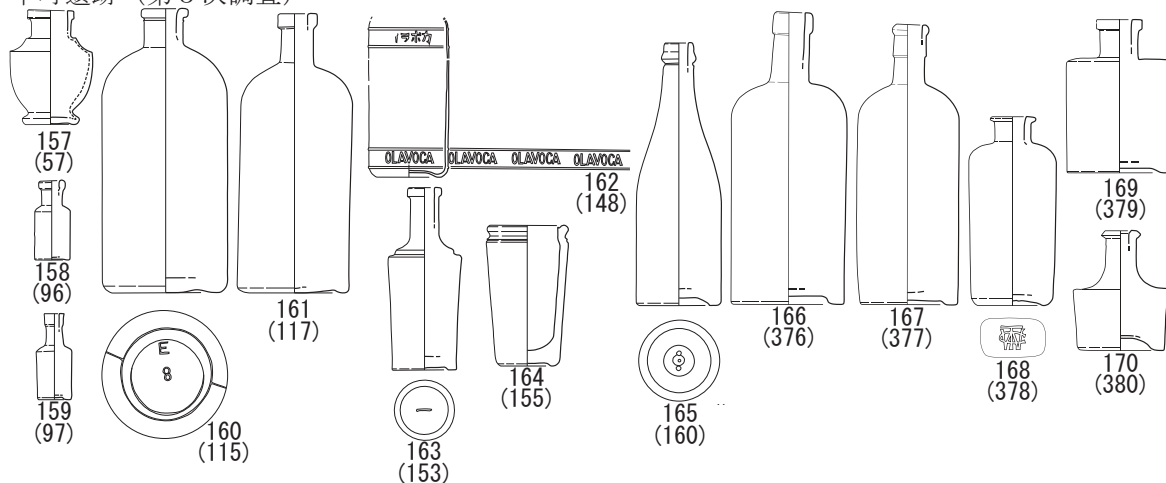


宮ノ東遺跡

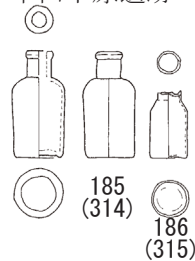


0 10cm
S=1:5

中町遺跡 (第5次調査)



平山下原遺跡

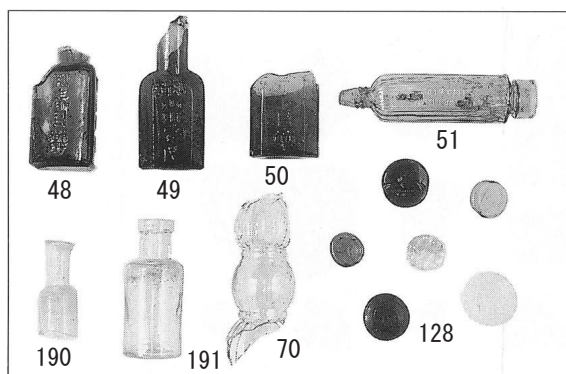


IV不明 ②栓

中町遺跡第5次調査



0 10cm
S=1:5



高岡麓遺跡



別府町遺跡